No.004
2020.3

すたんどばいみー News Letter

ばいみー通信

NPO法人 外国人支援ネットワーク
すたんどばいみー
STAND by ME

代表挨拶

昨年も引き続きお力添えをいただき、ありがとうございました。これからも、みなさまのご支援、ご協力のもと、精進して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

学校現場で働く中で、子どもたちの将来の夢を聞くと不思議に思うことがあります。日本人の子どもたちはユーチューバーやニートなりたいと言う子がいる中で、外国人の子どもたちは物作り、警察官などになりたいと言う子がいます。日本人の子どもたちは非現実的な夢で、外国人の子どもたちは現実的な夢をもっているように感じます。その背景としては、親が工場勤務で休みがなかったり、夜中に働いていたり、身近に仕事の不安定さを感じていることが要因として挙げられます。社会の外国人を取り巻く問題は日々変化していくのでアンテナを張っていきたいです。そして、教室に顔を出しにくる子どもたちが自分らしさを失わないよう立ち会っていきながら、2020 年も活動を継続していきます。

今、新型コロナウイルスによって様々な活動を自粛ムードに追いやる中、すたんどばいみーの活動もまたその限りではありません。外国にルーツを持つ人々の生活が今後どのように変化していくのか、その変容を読み取っていく必要があります。

REPORT　多文化共生事業

団地祭り

毎年恒例、団地祭り！

毎年 10 月に行われる団地祭りに、今年も出店してきました。すたんどばいみーにとって、活動拠点であり、いわばホームともいえる団地でのこのイベントは、スタッフの私たちも楽しみにしているイベントの一つです。

今年は、新メニュー「鳥皮餃子」と、おなじみのフランクフルトで売り切れ目指していざ開店。昼間は、馴染みのないメニューに「とりかわ？？」という反応。各国の出店が勢力を伸ばしつつあるこの団地祭りで、売れ行きに少し不安を感じながらも、夕方になると出店の通りは混雑し始めました。団地で暮らす働き盛りの多くは、土曜日も仕事で、工場や外仕事などで働く人が多いです。だから、夕方になると人が集まってきます。また、かつて団地で育ち今は近隣に住む人も、懐かしんでこの祭りにやってきます。一緒に育った友人たちや、顔見知りの人にきっと会えるだろう年一回の祭りを楽しみにしているのは、私たちスタッフも同じです。

「最近どう？」「子ども大きくなったね。」「あいつは、今何してるの？」そんな他愛もないような会話の中に、ばいみーの活動の根底で大切にされていることが垣間見られます。子どもの頃ばいみーに顔を出していて、今は青壮年になった子達から必ず言われる「ばいみーまだあるの？！」という言葉。「いやいや、去年もそれ言ってたでしょ。今もあるから。いつもあるから。」と返す言葉。きっと、来

年もまた来年も顔を出して、一つ食べ物を買ってくれて、同じことを言うのでしょう。そんな言葉のやり取りを、お手伝いにきて焼き物や袋詰めをせっせとしてくれていた小学生たちが不思議そうに見上げていました。

そして、夜になり人や神輿のエネルギーで、さらに祭りは賑わいます。空き家が目立つ力のない昼間の団地とは対照的な、年に一回の景色です。ちょっと小腹に、ちょっとお酒のつまみに、新メニュー鳥皮餃子も人気で無事に完売となりました。

顔を出してくれた皆さん、手伝ってくれた皆さん、からかいの言葉をかけにきてくれた皆さん、ありがとうございました。来年もぜひ団地祭りで会いましょう。

REPORT　外国人子ども支援事業

小学生教室

クリスマス会！

12 月には恒例となっている教室の子どもたちとのクリスマス会を行いました。就学前から 6 年生までの 20 名の子どもが参加し賑やかな会となりました。

今回は前半にパフェ・タピオカ作りと餃子の皮を使ったミニピザの調理を行い、後半はゲームを中心としたレクをしました。

調理のための材料の買い出しを高学年の子たちと一緒に行き、子どもに必要な人数に合わせた食材を揃えること、予算内で買えるものを子どもに考えてもらい、「スポンジケーキ 1 個で 20 人分だからいくつ必要だ」などとうまく計算しながら工夫する様子も伺えました。

ゲームではしりとりゲームと動物のジェスチャーゲームを行いました。子どもによって語彙力がある子とない子がいるのでしりとりが続くと、単語が出てこなく詰まったりすることもありましたが、周りの子どもが手助けする場面もあり楽しくできていました。

動物のジェスチャーゲームではチーム対抗で何の動物のマネをしているか当てるというものを行いました。少しマネが難しい動物でも自分なりに動いて表現する子がいたり、どういう動き・表現をしたらいいか分からなくてつっかえる子もいたりと子どもの個々の特徴・得意なことが見えた機会でした。

最後はクリスマスプレゼントとしてお菓子の掴み取りと今後の学習で使える文具セットをプレゼントしてクリスマス会を無事終えました。

イベントでは、勉強中には見られない子どもの特徴や能力が見られるので普段の学習の中でも学びにつながるゲームや企画を取り入れていきたいと思います。

中学生教室「生きにくさを言葉にする」

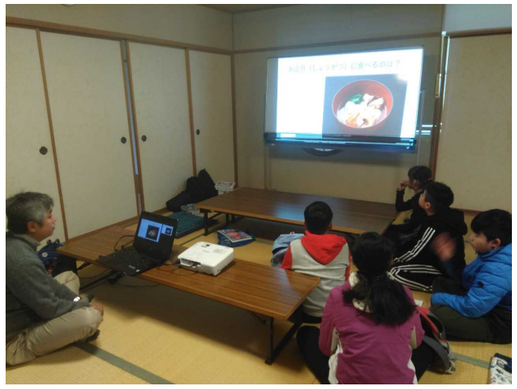
1 月 4 日、5 日に高校受験に向けて中学校の先生に来てもらい、集中講義を開催しました。あまり普段の教室に姿を出さない子どもも参加し、「スタッフ＋生徒」の学習関係だけではなく「生徒＋生徒」の学習関係も見られました。

集中講義に来ていた生徒の何人かが両親とよくケンカすると言っていました。ケンカの内容は様々ですが、生徒が口をそろえて言うのは「日本のことをわかってない」でした。母国で育った両親は母国よりの価値観を持っていますが、日本で育った生徒たちの大半は日本よりの価値観を持っています。親と子の間で文化的な価値観のズレが生じケンカに発展することが多いです。例えば、生徒が家庭のことより部活を優先しまうことからケンカに発展してしまうことがあります。宗教や親戚の集まりがあっても、「みんな部活を休んでないから休んではいけない」と言います。協調や調和を重視する日本の風潮が学校生活の中でも起きているからかもしれません。こうした、親に言っても理解してもらえない現状から、普段から両親と話さないことも多くなり、希望校の情報共有もあまりしないまま高校の進学を決めてしまうこともあります。普段集まって話せないからこそ本音や不満を共有できるこの場は、生徒たちにとって学校や家庭とは違う居場所なのでしょう。

パブリックリソース財団×すたんどばいみー

みなさんは日本の一般常識、どのぐらい知っていますか？

「日本で一番高い山は富士山」「富士山は静岡県と山梨県の間にある山」というような日本に暮らしていると自然と当たり前のように知る日本のことです。そのような「日本の一般常識」を学ぶ機会作りとなったきっかけは「外国人の子どもたちや私含め、日本の常識をあまりよく知りません。日本人と家庭背景が違うから、日本人の友達との会話でようやく知る事が多い」と言う、たわいもない雑談からでした。そしてそのたわいもない雑談は、幸運にも公益財団法人パブリックリソース財団から助成金を採択し、11 月 17 日に第一回目の授業を展開することができるようになりました。講師は、当団体の会員でもある平野氏です。



午前は小学生、午後は中高生と年齢で分けてそれぞれに応じた授業が展開されました。授業の中で子どもたちはじっと話を聞く事が多いです。「参加」と言うよりも「静かに待機」状態。そのため、先生も子どもたちの反応を見ながら話を展開に少々苦戦ぎみでした。後半の中高生では高校生の男の子が他の生徒にも質問や「茶化し」をいれてくれたおかげもあり、場が和み「参加」する姿勢がありました。

日本人の子どもたちにとって当たり前過ぎる一般常識は親から語り継がれるものです。知らなくても生きていける一般常識であるが日本人との会話において、このように知らなくてもよい知識を知らないことが多いです。故に「え、知らないの？これ常識だよ？」と日本人に心無いことを言われ傷ついてしまう経験をさせない為にもこの授業が青年たちの成長の一助になれれば嬉しいです。

REPORT　外国人子ども支援事業

ベトナム語教室「Chuc mung nam moi！」

1 月 25 日は、ベトナムの Tet（テト：旧正月）でした。Tet を迎える為に、ベトナム語教室では、Tet の話しとベトナムのちまきを子どもたちと食べました。「Tet、なにそれ～」と言う子どもたちでしたが、ベトナムと日本のお正月を比較しながら話していくと、「あ、それ家で食べたことある」「お母さんお祈りとかしてた」と様々な反応を示してくれました。

「お正月？なんで日本と違うの？」と疑問を持つ子どもたちは、家で行われることを理解しきれないまま、それが当たり前なのだと思っていきます。例え、両親に聞いたとしても不十分な言語の理解で、学校で聞いたとしても分からずじまいになっているのが現状です。そのような子どもたちにとって、Tet の話は、家の中で行われていることがベトナムの文化であると結びついたような様子が見られました。

教室で「Chuc mung nam moi！（明けましておめでとうございます）」のフレーズを学習すると、Tet のお祝いに帰省する子どもは、何度も何度も言えるように発音を聞き返していました。次回、子どもたちが Tet をどのようにすごしたのか、聞くのが楽しみです。

今後もこれらのような学習が、子どもたちにとって、親との繋がりとなり、ルーツを肯定的に捉えられるようにしていきたいです。

REPORT　コラム

「実習生の支援についてと働き方の実態」

私は日本国内の工場に常駐している。以前は、本社で定期的に行われる面談や訪問に同行し、実習生と話していた。しかし、それだけでは実際の様子なども知ることができないと思い、本社ではなく常に現場にいるようにした。今は、実習生の声が届きやすく、実習生達へのサポートや日本人従業員への発信がしやすくなった。私が主に行なっているサポート内容としては、実習生の病院対応から生活支援、現場のトラブルが起きればわかりやすく説明などもしている。たまに、イベントを開催し、日本語教室も行っている。

担当する実習生は、最年少 20 歳から最年長 29 歳までの 10 数名である。日本での暮らしに対して大きな期待や希望をもって訪れる。ほとんどの実習生はバッテリーの製造や梱包作業を行なっている。実習生は、機械保全の勉強を含めてこの職種を選ぶことが多い。

かれらの 1 日としては基本的に朝会含めての 8:30～17:00 までの勤務である。繁忙期は 2 ～ 3 時間の残業を行っている。法律によって残業時間が 45 時間／月となったが、実習生の中では「もっと残業をしたい」と話している者もいる。そのため、実習生たちの中では常にシビアな会話が繰り広げられている。

例えば、「今月はこの人と同じ残業時間なのに、なんでその人よりも給料が少ないのか？」など。また、ある時は「年金の差引額がほかの班よりも多いのはどうしてなの？」と、聞かれることもある。仕送りや生活費も含めて手元にどれほど残してその月を、過ごしていくのかが、彼らにとっては大切なことである。

彼らは、働きながら自分で日本語の勉強をしている。3 年のスパンで考えると、入社した日から 1 年間終えるたびに、日本語テストを受けなければならない。それに加え、1 年間の中で JLPT（日本語能力試験）が 2 度（7 月と 12 月）行われる。実習生たちは、できるだけ N3 を目指して勉強をしている。もちろん、N4 や N4＋N5 ぐらいの日本語能力保持者もいるが、帰国後の進路等が関わってくるためみんな必死になっている。

現在、私が担当している人たちはまだ、1 期生として工場にいる。そのため、私は送り出す終了予定者をまだ経験していない。現場の実習生達の中では、帰国後どうしたらよいか不安に思っている人達も少なくはない。

N3 以上を目指す実習生のほとんどは、特定技能実習生になるために勉強をしている。特定技能実習生になるには、日本語試験に加え現場の技術試験もある。特定技能実習生になれば、実習生として働いていた種類の仕事を無期限で行うことができるからだ。

〈日本生まれの私にはない感性〉

私が、技能実習生たちがとても上手だと思うのは何に対しても正直であり、ストレートに伝えてくるところだ。これは、たまにデメリットになることもある。何かのトラブルの際、自分の気持ちや考えを、段階を踏んで伝える事より直接所長に伝えに行くことも多々ある。それは、人の立場を選び「この人はこんな人だ。」と会った時から、彼らの中で分析が始まっているからだ。

第 4 号　NPO 法人外国人支援ネットワーク　すたんどばいみー　ニュースレター　2020 年 3 月発行

すたんどばいみーでは、
サポートしていただける方を募集しています

正会員	**1 口**	**6,000 円/年**	**入会金 5,000 円**
賛助会員	**1 口**	**3,000 円/年**	**入会金 3,000 円**
学生会員	**1 口**	**1,000 円/年**	**入会金 1,000 円**

〈振込先口座番号(ゆうちょ銀行)〉

（ゆうちょ銀行からの場合）
記号：１０９１０　番号：１７９６０２７１
トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

（ゆうちょ銀行以外の金融機関からの場合）
店名：〇九八店（ゼロキユウハチ店）　普通　口座番号：１７９６０２７
トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

NPO法人 外国人支援ネットワーク
すたんどばいみー
STAND by ME

NPO 法人　外国人支援ネットワーク
すたんどばいみー
〒242-0007
神奈川県大和市中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107
TEL/FAX　046-272-8980
fsn.standbyme.2001@gmail.com
https://www.fsn-standbyme.org/